

他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語学習 —学びを通して身に付けた言葉の力を日常生活で生かそうとする—

言語部 研究主題

言葉のよさに気付き、親しみ、日常生活に生かす単元づくり

第5学年国語科学習指導案

単元名 大一小学校のお話（仮） ～新1年生に学校のことを伝えよう～

学習材名（開発単元のため、学習材なし）

第1会場 品川区立大井第一小学校
日時：令和8年2月20日(金)5校時 【本時第5時】
児童：品川区立大井第一小学校 第5学年月組 35名
担任：品川区立大井第一小学校 教諭 馬場 久寿
指導者：江戸川区立篠崎第三小学校 教諭 藤井 達也

第1会場 品川区立大井第一小学校
日時：令和8年2月20日(金)5校時 【本時第6時】
児童：品川区立大井第一小学校 第5学年竹組 35名
担任：品川区立大井第一小学校 主任教諭 福田 純也
指導者：杉並区立久我山小学校 教諭 小原 慶子

1 単元の目標

- 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くことができる。〔知識及び技能〕(1)ア
- 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ウ
- 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

2 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。 ((1)ア)	①「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 (B(1)ウ)	①粘り強く、読み手に伝わるように言葉や表現を選択し、学習の見通しをもって「〇〇のお話」の文章を書こうとしている。

3 単元構想

(1) 児童について（児童観）

・ 第1会場

児童は、4月から少しずつ「書くこと」の経験を重ねてきている。1学期は、集めた情報を整理し、伝えたいことを明確にして文章にまとめることを、2学期は、自分の意見を効果的に伝えるための構成や資料の工夫を学んだ。児童は、「書くこと」の学習を通して自分の思いや考えを整理し、伝える力を段階的に身に付けてきた。

これらの経験を通して、児童は相手を意識して内容を選んで書こうとしている。しかし、「書くこと」を好んでいなかったり苦手意識をもっていたりする児童もあり、頻繁に教師に確認しながら書くなど、何をどのように書いたらよいかを不安に感じている様子もうかがえる。月組は、作品のモデルを参考に自分で工夫して書くことができる児童が多く、竹組は、作品のモデルがあることで、安心して書くことができる児童が多い。

以上のことから、児童は自分で工夫しながら書いた経験や、書いたことへの満足感や達成感を味わった経験が少ないのではないかと考えられる。また、手紙以外で相手を想定して書こうとする意識や、自分と関わりのな

い相手に向けて書いた経験が少ないこともうかがえる。

本単元では、自分と関わりの少ない相手に対して、書いて伝えるという活動を設定した。「書くこと」への苦手意識を軽減するために、複数のモデル作品を用意して必要に応じて提示したりグループで一つの作品を書いたりすることとする。相手を想定して書く内容や構成を決めたり、相手により伝わるように言葉や表現を選んだりしながら作品を作り上げることで「よいものを書けた」「書いてよかった」という満足感や、「書いたことが伝わった」「書いたことが人の役に立った」という達成感を感じ、「書くこと」への自信を高めていく。

本単元の学習を通して、「書くこと」のよさを感じるとともに、「伝える相手に応じて、必要な内容や伝わりやすい言葉や表現があること」や「言葉を介して相手との関係をつくることができること」に気付き、単元終了後も意識して生活していこうとする姿を目指したい。

(2) 学習材について (学習材観)

① 伝える相手

これまで、「書くこと」や「話すこと・聞くこと」の相手は、クラスの友達や家族、お世話になった方など、自分と同年代や自分のことをよく知っている人や自分より年上の人が主であった。そして、自分もよく知っており、すでに関係のできている相手に向けての発信が多かった。今後の学習や実生活では、投書や案内文、PR文など、直接関わりのない相手に向けて発信する機会も増えていく。

本単元では、伝える相手を新1年生と設定する。新1年生は、これまで一緒に過ごしたことがなく、関わりのない年下の相手である。関わりのない相手のことを想定して内容や構成を考えたり、適切な言葉や表現を選択したりするというのは児童にとって初めての経験である。新1年生を伝える相手に設定することで、本単元の学習を通して言葉を介して新たな関係が生まれることを実感できると考えた。

② 「〇〇小学校のお話」(教師自作)

「〇〇小学校のお話」は、新1年生に向けて小学校生活を紹介する短いお話である。文章と併せて写真やイラスト、吹き出し等を活用し、新1年生の気になることを中心に学校生活を説明し、入学を楽しみにしてもらうことを目的としている。

市販の図書資料を参考に、物語になっているもの、キャラクターが案内していくもの、読み手が参加できるページがあるものなど、様々な構成のお話を作成した。新1年生対象のものであるため、文章量が多すぎたり使用する言葉や表現が難しすぎたりしないよう留意した。新1年生(年長児)が一人で読むのではなく、保護者と共に読むことを想定して、簡単な比喩や慣用表現などを用いたり片仮名を使用したりしている。

第2時に、全7作のうち3作を、構成や言葉の難易度の参考になるよう共通の資料として提示する。その他も教室内の図書コーナーに置いておき、児童が自由に手に取って読み、参考にできるようにした。各お話の特徴は、以下の通りである。

	書名	特徴
1	まいごになってもだいじょうぶ ～たかほたしょうがっこうのおはなし～	キャラクターが、校内で迷子になったときどうしたらよいかを教える。 *呼びかけ・オノマトペ・比喩
2	べんきょうたのしみ ～こうやましょうがっこうのおはなし～	主人公が1年生の教室で学習を体験し、友達と学ぶよさを感じる物語。*オノマトペ・会話・慣用表現・繰り返し
3	やすみじかんって、なにをするの ～くがやましょうがっこうのおはなし～	疑問に答え、1週間の休み時間を、聞こえてくる音と共に紹介する。 *オノマトペ・呼びかけ
4	どんなべんきょうするのか ～こうやましょうがっこうのおはなし2～	キャラクターが時間割に沿って1年生の学習を紹介する。途中、読者が参加できるページがある。 *オノマトペ・比喩・慣用表現
5	ともだちできるかな ～しのさんしょうがっこうのおはなし～	キャラクターが校舎になっていて、学校生活の中で友達ができる場面を教えてもらう。 *オノマトペ・慣用表現・擬人法
6	きょうしつってどんなところ ～かみいたばしだいよんしょうがっこうのおはなし～	キャラクターが、机やロッカーの様子や使い方、掲示板の様子など、1年生の教室の中を紹介する。 *呼びかけ・オノマトペ・比喩
7	べんきょうだってこわくない ～たかさごしょうがっこうのおはなし～	5年生が自分が1年生だったときの経験を基に、チャレンジしたら学習ができるようになることを教える。 *呼びかけ・オノマトペ・比喩・慣用表現

③「1ねん1くみの1にち」(川島敏生:アリス館)他 市販の図書資料

就学前の心構えや学校生活を紹介するために、たくさんの本が市販されている。物語になっている絵本、写真とイラストで学校生活の1日を紹介している本、1年間や、学習、学校生活で必要なスキルについて紹介している本など、多様である。新1年生に伝わりやすい言葉や表現が多く使われていたり、吹き出しが活用されていたりするものも多い。

事前に集めた本を第2時に参考図書として紹介し、構成を参考にしたり新1年生に伝わりやすい表現を集めたりする。その後は、図書コーナーに置いていつでも手に取ることができるようにしておき、本づくりと並行して、新1年生に伝わりやすい言葉や表現を集めたりする際に活用する。

④着目させたい表現

新1年生に伝わりやすい表現として、児童に着目させたい表現は、以下の通りである。

	種類	具体例
1	呼びかけ	～かな ～ね ～よ
2	オノマトペ	わくわく うきうき そよそよ ドンドン キュッキュ 他
3	会話	「 。」
4	比喻	～みたい/お風呂みたい ～のような/迷路のような まるで～のよう/まるで図書館のよう
5	程度	～ぐらい/心配になるぐらい ～ほど/とびあがるほど
6	慣用表現	心がはずむ ほっぺたがおちる 首を長くして
7	擬人法	時計も応援しているね。 私は、玄関の時計です。(なりきる)
8	リフレイン(繰り返し)	もっと高くもっと高く

年下の相手だからと安易に「楽しい」「おもしろい」などの言葉を使用すると、同じ言葉の繰り返しになってしまう。同じ言葉の繰り返しばかりでは単調になってしまうことに気付かせ、「着目させたい表現」を意識して別の言葉で言い換えたり、程度が分かるように表したりするようにしていく。

⑤「言葉ノート」

会場校の児童は、2学期から「言葉ノート」作りに取り組んでいる。言葉への関心を高め、言葉を意識しながら生活する習慣を付けることを目指している。

常時活動	取り組みの意図
「言葉ノート」	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科や他教科の学習、日常生活の中で見つけた印象的な言葉や使ってみたい言葉を「言葉ノート」に書き溜めるようにすることで、言葉を意識して生活する習慣を付けるとともに、児童の語彙を豊かにする。 ・「言葉ノート」を見返すことで、自分の集めた言葉を振り返り、気に入った表現を選んだり使用してみたい言葉を選んだりする。 ・「言葉ノート」に書き溜めた言葉を使って文章を書いたり話したりするなど、集めた言葉を表現に活用する。

単元の学習と並行して、「言葉ノート」の取り組みの中で「楽しい」や「うれしい」の類語を集めたり、小さい子向けの比喻表現やオノマトペを集めたりする。お話を書く際に言葉を探したり、言い換える言葉を探したりするときに活用する姿が生まれることを期待する。

⑥「ことばのたからばこ」(光村図書 1年下)

新1年生に伝わる言葉を探す際のヒントとして活用する。教科書巻末の「ことばのたからばこ」は、令和6年度版から1年生の下巻にも掲載されるようになった。1年生の下巻から6年生まで、全ての巻に掲載されている。5年生のものと比較することで、言葉の難易度の違いを明確に感じることもできる。

(3) 単元について(単元観)

本単元は、新1年生が小学校生活で気になっていることに答える「おおいちしょうがっこうのおはなし」を書き、新1年生に届けることを通して、「言葉には、相手とのつながりをつくる働きがある」という言葉の働きに気付くことをねらいとした単元である。

5年生の児童と新1年生になる園児とは、現時点まで関わりがほぼない。しかし、来年の4月からは、6年生と1年生として関わり合ったり縦割り班活動でペア学年になったりする相手である。会場校では、5年生と新1年生が関わり合う機会は設定されておらず、通常は4月に会うまで互いのことを知らないまま過ごす。

そこで、書いたものを通して入学前に新たな関係を結んでおくことができるのではないかと考え、新1年生を相手に設定して本(写真を載せた絵本)をつくることとした。新1年生が小学校生活で気になっていること

に答える本を作成し、新1年生保護者会などの場も活用して本を届け、読んでもらうことで、言葉を介した関わりを生み出していく。新1年生が気になっていることを調査して本をつくることで今まで意識したことのない新1年生の存在を意識し、本を読んだ感想が届くことで相手の存在を実感したり達成感を味わったりすることができる考えた。

本単元の学習が、児童が新1年生の入学を心待ちにする姿や、最高学年への意識の芽生えにつながることを期待する。併せて、新1年生が本を作ったお兄さんやお姉さんに会うのを楽しみに入学してくるというように、新6年生の児童に例年以上の親近感をもって学校生活を開始することも期待したい。

また、相手が自分より年下の園児ということで、使用する言葉の種類や難易度が限られてくる。そして、限られた分量の中で、よりよく伝わる言葉や表現を選ぶ必要感が生まれる。伝える内容だけでなく使用する言葉や表現も、相手に合わせて適切なものを選ぶ必要があることに、自然と気付くことができる考えた。伝える内容や相手に応じて、どのような言葉や表現を使うとよいのかを考え、適切な言葉や表現を選んで書こうとする姿が現れることを期待する。

単元全体を【出合う】【親しむ】【生かす】の三つの段階で構成した。

【出合う】…相手意識と目的意識を明確にし、単元の学習課題を設定し、単元名を付ける。

【親しむ】…グループの学習課題を設定し、相手と目的を意識して「大一小のお話」をつくる。

…グループの学習課題が達成できているかという視点で読み返し、表現を推敲する。

【生かす】…様々な人から届いた「大一小のお話」の感想を読み合い、言葉の働きについて考える。

【出合う】…相手意識と目的意識を明確にし、単元の学習課題を設定する。

【出合う】段階では、新1年生の「小学校生活で気になること」に着目して「新1年生に伝わる大一小のお話をつくろう(仮)」という単元の学習課題を立てる。

1月、近隣の保育園の先生から手紙が届くところから単元がスタートする。近隣の保育園、現1年生に「入学前にどんなことが知っていたか」「どんなことが気になったか」などを聞く調査活動を行ったり結果を整理したりする中で、「新1年生に教えてあげたい」「自分だったらこれを教えられそう」という思いが高まる。その思いをもとに単元の学習課題を立て、単元名を考える。

その後、参考資料や参考図書(教師自作の資料や市販の学校紹介の本、小学校入学を題材にした絵本)を読み、構成やレイアウトの工夫、1ページの情報量、新1年生向けの表現の工夫などの特徴をつかむ。児童が気付いた表現の工夫(着目させたい表現)を整理して共有し、ページを作成したり推敲したりする際に参考にできるようにする。参考資料や参考図書を読む活動は単元と並行して継続し、表現の工夫を収集したり気付いたものを共有したりしていく。

【親しむ】…グループの学習課題を設定し、相手と目的を意識して「大一小のお話」をつくる。

…グループの学習課題が達成できているかという視点で読み返し、表現を推敲する。

【親しむ】段階では、全体で大まかな学習計画を立てた後に、グループごとに本(お話)づくりの活動を進める。本単元では、グループ内で相談し合う場を「編集会議」と呼ぶ。編集会議でグループの学習課題「新1年生が～を○○する本(例:勉強が楽しみになりわくわくする本・友達作りの心配がなくなり安心する本)をつくろう」を設定し、その実現のためにどのような形式の本にするか、必要な作業や分担などの作成計画を話し合う。「わくわくする」と「安心する」では、必要な内容や使用する言葉が変わってくる。「親しむ」段階の第3時～第5時では、毎時間の始めと終わりに編集会議の時間を設定し、グループの学習課題に沿っているかを確認しながら、それぞれのページの進捗状況の共有や表現の確認を行う。必要に応じて再取材をしたり新たなページの作成をしたりと、行きつ戻りつしながら本づくりを進めていく。第6時には、完成した互いのページを改めて読み合い、グループの学習課題に沿ったものになっているのかどうかを考える。グループの友達や他グループの友達から意見をもらい、より適切な表現にできる箇所はないかを考え、推敲する。

本づくりは、一人一台のタブレット端末で行い、文章と共に、写真やイラスト、吹き出しなどの図形を活用して作成する。「言葉×写真・イラスト×図形×色彩」のマルチモーダルの要素を含んだ活動である。「わくわく」した気持ちにするためには、アップとルーズのどちらで撮るとよいのか、文字や背景を何色にすればよいのかなど言葉以外の要素においても「相手や目的を意識した表現」を考える必要がある。

【生かす】…様々な人から届いた「大一小のお話」の感想を読み合い、言葉の働きについて考える。

【生かす】段階では、「大一小のお話」を読んだ人から届いた感想を読み、感じたことを出し合って単元の学習を振り返る。保育園の先生や年長児(新1年生)、低学年の担任、図書館司書や1年生の児童に、読んだ感想を書いてもらったり読んでいる様子を教えてもらったりする。それらを読むことで、使用している言葉の適否や表現の効果に気付いたり、作品として仕上げた達成感を味わったりすることができる。その後、今回心掛けたことや大切だと感じたこと、新1年生に対する思いの変化などを振り返る。

新1年生に届けるのは本単元の終了後になるが、届いた感想を紹介することで「言葉には相手とのつながりをつくる働きがある」ということへの実感を強くしていけるようにする。

4 研究主題に迫るために

(1) 「言葉による見方・考え方」を働かせる学びをつくる。

「言葉による見方・考え方を働かせる」児童の姿

言語部では「言葉による見方・考え方を働かせる」とは、「言葉に着目し、意味や役割、効果を考え、意識して使おうとすること」であると考えている。

児童が、自分の思いを表現したり情報を基に自分の考えを形成したりしようとする際に、言葉の意味や効果に着目し（言葉による見方）、比較や類推等の概念的思考を働かせて考え（言葉による考え方）、より適切に判断しようとしている姿が、「言葉による見方・考え方を働かせる」姿である。さらに、「言葉による見方・考え方」を働かせて言葉を使った結果、自分の思いや考えが広がったり深まったりしたことで、「言葉のよさ（役割や効果）」を実感することが言葉への自覚を高めるということである。これらの学習経験を重ねていくことが、児童の語彙を豊かにし、豊かな言語生活者が育つ基盤となると考える。

「書くこと」の学習では、様々な言葉や表現に着目し（言葉による見方）、比較したり類推したりして（言葉による考え方）、自分の思いや伝えたい内容に対して適切な言葉や表現を選択しようとする姿が、「言葉による見方・考え方を働かせている」姿である。それぞれの学習過程の中で、どの言葉や表現がより適切なのかを比較し、言語感覚（語感や言葉の使い方に対する感覚）を意識して最適なものはどれかを考え判断しようとする際に、「言葉による見方・考え方を働かせる」のである。（別紙資料①参照）

本単元は、新1年生が小学校への入学が楽しみになるような本をつくることを通して、言葉には相手との関係をつくる働きがあることに気付くこと（知・技（1）ア）をねらいとしている。「この言葉や表現で新1年生に伝わるかな」と考えたり、複数の候補の中から「どの言葉や表現が、新1年生に一番伝わるのだろうか」「どの言葉や表現を使うと、新1年生が〇〇（例：わくわくニグループの学習課題）した気持ちになるだろうか」などと考え、言葉や表現を選ぼうとしたりしている姿が、本単元における「言葉による見方・考え方を働かせる」児童の姿である。

会場校の児童は、「読むこと」の学習や「言葉ノート」の活動を通して、表現の効果を感じたり言葉への関心を高めたりしてきた。しかし、書いたものを見直し、相手や目的に合わせて言葉を吟味した経験は十分ではない。そこで、本単元では、一度書き上げたものを見直してより適切な言葉や表現はないかと考える経験をさせたいと考えた。第6時では、複数の候補を出し合い、それぞれの言葉や表現から受け取る感じ方を友達と出し合う。それらを参考にしながら、新1年生により伝わりやすい最適な言葉や表現を選択しようとする姿を目指す。

本単元における「言葉による見方・考え方を働かせる」ための方策

【出合う】…単元の学習課題を設定し、伝える相手を新1年生とすることで、伝わる言葉や表現かどうかを検討する必要感を生み出す。（第1時）

第1時は、児童に近隣の保育園の先生からの手紙が届くところから始まる。「年長さんが、もうすぐ卒園する。4月から1年生になることを今からとても楽しみにしているようだけれど、心配なことがある子もいるようなので、何とか力を貸してもらえないだろうか。」というような内容である。

そこで、小学校入学にあたり、年長児が「気になること」をリサーチする。リサーチしたり結果を出し合ったりする中で、「新1年生の気になることを自分たちが教えてあげたい」という意欲が徐々に高まっていくと考える。児童はリサーチ活動の中で「友達同士で使っている言葉だと、小さい子には伝わりにくいときがある」と気付くだろう。単元の学習課題を設定する際、伝える相手を新1年生とすることで、年長児に伝わる言葉や表現を探したり書いたものを見直したりする必要感を生み出すことができると考えた。

【親しむ】…編集会議を行い、互いの書いた言葉や表現が「新1年生が〇〇（例：わくわくニグループの学習課題）する気持ち」になるために適切かどうか検討する。（第3～5時）

第3時以降は、毎時間の始めと終わりにグループの編集会議を行う。編集会議では、主に進み具合の確認やできたものの共有、言葉や表現の検討や困ったことの相談などを行う。第6時では、各自が作成したページが、「新1年生が〇〇する気持ち」になるかどうかという視点で見合い、検討する。新1年生により伝わるように言葉や表現を工夫できそうなどを探したり、言葉や表現から受け取る感じを話し合ったりしたことを生かし「言葉による見方・考え方」を働かせてより適切な言葉や表現を選ぼうとすることができると考えた。

(2) 児童が(本単元において)身に付けたい力を意識し、自ら学びを進める。

「児童が身に付けたい力を意識し、自ら学びを進める」姿

言語部では、「児童が身に付けたい力を意識し、自ら学びを進める」姿とは、児童が「〇〇したいな」という思いをもち、その実現のために「どのような言葉や表現に着目したらよいか」、また「どのように学習を進めたらよいか」と考え、行動する姿だと考える。

そのためには、学習の対象との「出会い」が大切となる。児童自身が「身に付けたい力を意識し、学びを進める」ためには、児童の課題意識を十分に醸成することが不可欠である。「出会い」の学習材や活動を工夫し、自然と「～したい」という意欲や「～するにはどうしたらよいか」という課題意識が生まれ高まっていくように単元を構成していく。児童の高まった思いを基に単元の学習課題を設定し、その中で一人一人が「自分は〇〇を～したい」というように個人の学習課題を設定していく。また、児童自身が見通しをもって学習に取り組むためには、単元の学習計画を立てることも欠かせない。どのように学習を進めていくのか見通しがもてていることで、自分の学びを振り返り自己調整ができるのである。(別紙資料②参照)

「書くこと」においては、「〇〇に～を伝えたい」という思いをもち、「相手や目的のために、どのように言葉や表現を使うとよいのだろうか」と考え言葉や表現を吟味している姿を「身に付けたい力を意識している」姿であるとする。また、「単元の学習計画を立て、次は何をするのかという見通しをもって学習に取り組む」姿や「方法や対話の相手を必要に応じて選択している」姿、「毎時間の進み具合を振り返って、次の時間に行うことを考えるなど自己の学びを調整している」姿を「自ら学びを進める」姿であると捉える。

会場校の児童は、クラス全体の学習課題の解決のために、方法や対話の相手を選択して学習を進める経験を重ねてきており、グループでの活動も積極的に行うことができる。しかし、グループごとの学習課題や個人の学習課題を設定したり、自己の学びを振り返って次に必要な活動を考えたりした経験は少ない。第3時から第5時の中で少しずつ経験を重ね、それぞれの学習課題(身に付けたい力)を意識し、次に必要な学習活動を考え(自ら学びを進める)実行していく姿を目指す。

本単元における「児童が身に付けたい力を意識し、自ら学びを進める」ための方策

【出会う】…「新1年生が気になることを教えてあげたい」という思いを醸成する。(第1・2時)

第1時に近隣の保育園の先生から手紙が届いた後、気になっていることや心配なことは何か考え、リサーチ活動として自分の経験を想起したり弟や妹にインタビューしたりする。近隣の保育園児の話の聞いたり比較的記憶の新しい校内の1年生にインタビューしたりすることで、新1年生が入学前に気になっていることが徐々に分かってくる。第2時には、分かったことを出し合って分類・整理をしたり感じたことを共有したりする。これらの活動を通して、「新1年生に教えてあげたい」という思いを醸成した後、単元の学習課題を設定する。

【親しむ】…新1年生がお話を読むことでどのような気持ちになってほしいかを考え、グループの学習課題を設定する。(第3時)

…編集会議を行い、作成途中のページの内容や使用している言葉や表現がグループの学習課題に合っているのか確かめる。(第3時～5時)

第2時に、単元の学習課題「新1年生に伝わる大一小のお話をつくろう(仮)」を設定した後、第3時では、自分たちのつくった本を読んで、新1年生にどのような気持ちになってもらいたいかを考え、それを基にグループの学習課題「新1年生が～を〇〇する本(例:勉強が楽しみになりわくわくする本・友達作りの心配がなくなり安心する本)をつくろう」を設定する。グループの学習課題を設定することで、そのような気持ちにさせるために「どのような内容を入れるとよいか」「どのような工夫ができるのか」「どのような言葉や表現を使用すればよいか」などと考えて学習を進めたり、編集会議の際、グループの学習課題に立ち返って検討を行ったりするようになり、「身に付けたい力を意識」することになる。

「わくわくする」と「安心する」では、そのような気持ちにさせるために必要な言葉や表現が異なってくる。グループの学習課題を設定したり毎回の編集会議で学習課題を確かめたりすることで、児童が、「新1年生が〇〇な気持ちになる本」を作るために、どのような言葉や表現を使えばよいかと考え「身に付けたい力を意識」して学習に取り組むことができると考えた。

【親しむ】…単元の学習計画を児童とともに立てる。(第3時)

…授業開始と終了時にグループで編集会議を行い、活動の見通しや振り返りを行いながら自分たちの進捗で本づくりを進める。(第3～5時)

…各グループの学習課題とページの担当者、進み具合等を共有し、必要に応じて相手を選び相談する。(第3～5時)

第3時から第5時は、グループごとに本づくりを進める時間である。第3時の始めに、学級全体で学習計画を

立てて活動の見通しをもった後、グループごとの活動に入る。グループによって行う活動が異なるため、編集会議を設定し、見通しをもったり振り返ったりしながら学習を進めていくことができるようにする。

編集会議では、毎時間の始めにグループの学習課題を解決するために「何が必要なのか」「どのように進めるのか」を確認することとする。終了時には、「どこまで進んだのか」「グループの学習課題に合っているのか」「次は何をするのか」を話し合い、次時の見通しをもつことを目指す。

学習計画を立ててやるべきことや順番を大まかに整理し、編集会議で振り返ることで、必要に応じて前の活動に戻ったり先に進んだりするなど、自分たちの学びを調整することが、「自ら学びを進める」ことである。

また、各グループの学習課題やページの内容、担当者や進度を一覧にして提示し、誰でも見ることができるようにしておく。迷ったときやヒントが欲しいときなど、必要なときに必要な相手と相談ができるようにするためである。必要に応じて相手を選択することも「自ら学びを進める」ことの一つであると考えられる。

(3) 学習活動（言語活動）において、自らの考えをもち、多様な考えをもつ他者と関わり協働する中で、新たな考えをもつ。

言語部では、児童の言語感覚を養い、語彙を豊かにすることが、言葉に対する「自分の考えをもつ」ことだと考える。児童の語彙を豊かにするためには、他者との関わりが不可欠である。同年代、年上、年下など様々な人と関わる中で、新たな言葉との出会いが生まれ、対話を通して言葉の意味や役割、効果を知ることができる。直接的に関わるだけでなく、書物や音声や映像、伝統的な言語文化等の作者との間接的な関わりによっても言葉との出会いは生まれる。他者との関わりの中で新たな言葉と出会い、語彙が広がっていくのである。

「言葉による見方・考え方」を働かせ、どの言葉や表現がより適切なのかを比較する際には、語句を理解するための方策「①有無 ②言い換え ③経験の想起 ④辞書的な意味 ⑤動作化」を使って考える。その際、友達とどのような言葉や表現があるかを出し合ったり、それぞれの言葉や表現からどのような印象を受けるかを話し合ったりすることが欠かせない。

他者との関わり協働することにより、「新たな言葉との出会い」や「言葉の意味や役割、効果」「人による感じ方の違い」等に気付き、言葉への理解を広げたり深めたりすることができるのである。学習の中でこれらの経験を重ねることで、児童の言語感覚を養い、語彙を豊かにしていくことを目指す。（別紙資料①②参照）

本単元では、「新1年生が〇〇（例：わくわく・安心）する本」をつくることを通して、自分の使った言葉や表現が、相手に伝えるために適切なのかどうかを考えていく。

低学年の児童とやり取りしたり園児向けの絵本を読んだり、関連語句を言葉ノートに集めたりすることで、新1年生に伝わる言葉を意識することを目指す。担当のページを仕上げる過程でグループの友達に相談したりアドバイスをもらったりする中で、自分では気付かなかった言葉や表現に出合ったり同じ言葉や表現でも自分とは異なる受け取り方をする人もいると気付いたりすることができる。それらを参考にしながら、新1年生向けの本に載せる言葉や表現としてどれが適切かを考えることで、児童の言語感覚を養うことができると考える。

本単元における単元構成の工夫や言語活動の工夫

【出合う】…低学年の児童との対話や園児向けの絵本を読むことで、新1年生向けの言葉を意識する。（第1時）

第1時では、低学年の児童に小学校に入学する前に気になったことをインタビューし、第2時には、園児向けの絵本を読む。これらを通して、本単元で使用する新1年生に伝わる言葉や表現の特徴を意識することができる。

【親しむ】…グループの編集会議で自分の担当ページの言葉や表現を見直し、最適なものを選択する。（第6時）

第6時は、1単位時間全てを使ってグループの編集会議を行う。グループの学習課題「新1年生が～を〇〇（例：わくわく・安心）する本」を踏まえ、それぞれが作成したページに使われている言葉や表現を見直す。

この時間の編集会議の目的は、自分が気になっている箇所について相談したり、自分では気付いていない工夫ができそうな箇所を教えて貰ったりしながら、新1年生により伝わる言葉や表現へと推敲していくことである。

「他の言葉や表現を使うとしたら」と候補を貰ったり、「この言葉だったらこんな感じが伝わってくる」「これとこれだったら、より〇〇な気持ちになるのはどちらか」「新1年生に伝わりそうなものはどれか」など、グループの友達や他グループの友達に意見を貰ったりする。それらを基に、改めて集まった言葉や表現を見比べ、最適なものを選択し最終決定する。友達とのやり取りで広がったアイデアを参考に自分の考えを確かに行うことができる。

【生かす】…本を読んだときに受け取る感じ方について、様々な人に意見を貰う。（第7時）

第6時の推敲を経て完成した本を、保育園や幼稚園の先生や低学年の担任、図書館司書や1年生の児童など、様々な人に届け、読んだ感想を貰う。「どのページがよかったか」「どの言葉や表現がよかったか」「どんな気持ちになったか」「新1年生に伝わりにくそうなどころはどこか」など、年齢や立場に応じて感想を書いてもらう。幅

広い立場の人からの感想を読むことで、使用している言葉や表現をもう一度見直したり、言葉の力や表現の効果に気付いたりすることができると考えた。

(4) 獲得した言葉の力を日常生活に活用し、言語生活を豊かにする。

本単元で児童は、新1年生が小学校入学を楽しみにするようになる本をつくることを通して、主に以下の二つの言葉の力を獲得することを目標とする。

①言葉には相手との関係をつくる働きがあることに気付くこと（知・技（1）ア）

②目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること（思・判・表B（1）ウ）

今回の学習では、新1年生を対象に本を作成する。新1年生は、これまで関わりが全くなかった未知の相手である。本単元で、相手の気になることを想定し、それに応える本を写真やイラスト、吹き出しなどの図形を使って作り、届けることで、新1年生との間に新たな関係が生まれる。単元終了後に本を読んだ感想を送ってもらうことで、言葉を介して新たなつながりができたと実感することができるだろう。次年度の4月からは、6年生と1年生として学校生活の中で相手との関係をさらに深めることになる。

本を作る際には、相手を想定しながら内容や言葉を選ぶ。「新1年生に〇〇な気持ちになってもらうための本」という目的に合っているかを確認しながら本の制作を進める。相手が新1年生なので、文章で多くの内容を伝える訳にはいかない。どこを簡単に、どこを詳しく書くのか、新1年生に分かりやすく伝えるためにどんな工夫をしようかと考えて書く必要が出てくる。年下の相手なので、普段使用している言葉や表現では伝わらない可能性もある。相手に伝わりやすいかを考えて言葉や表現を選んだり、伝わったかを確認しながら書いたりすることの重要性に気付くこともできる。

【生かす】…単元終了後の日常生活において、本単元で獲得した言葉の力を活用しようとする。

本単元で、児童は「言葉を介して、新たな相手と関係を結ぶことができる」ことや「相手や目的に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりする箇所を選び、伝わるように工夫して書く」こと、「相手により伝わる表現があるかもしれないと考え、複数の候補を出してぴったりだと思うものを選ぶ」ことを学ぶ。

単元終了後には、以下の4つの姿が現れることを期待する。（ア・イ・ウの詳細は、後述。別紙資料③参照）

ア：言葉そのものへの興味・関心

新しい語句や表現に興味をもち、その意味や使い方、効果を知ろうとしたり書き留めたりしている。

イ：自己内対話

自分の表現が相手に伝わるかどうか考え、言葉を選んだり付け加えたりして書いたり話したりしている。

ウ：他者とのコミュニケーション

①相手に合わせて使う言葉や内容を選んで話し、言葉を介して相手とよい関係を築こうとしている。

②相手や目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりする箇所を選び、伝わるように工夫して書いている。

今後の学習や日常生活の中でこれらの姿が現れることが、本単元で獲得した言葉の力を活用していることである。これらの経験を重ね、語彙を豊かにしていくことが、児童の言語生活を豊かにしていくことであると考えられる。

想定される本単元で獲得した言葉の力を活用しようとしている場面

場面	具体的な姿
学習	ア：「やなせたかし」「大造じいさんとガン」など「読むこと」の学習で、気になる表現や気に入った表現を見つけて言葉ノートに書き留めたり、実際に使用してみたりしている。 イ：「子ども未来科で何をやる」などの「話すこと聞くこと」の学習で、聞き手の反応を見ながら、言い換えたり言葉を付け加えたりして話している。 ウ①：交流場面で、相づちを打ちながら友達の話の話を聞き、肯定的にやり取りをしている。 ウ②：「あなたはどうか考える」「言葉でスケッチ」など「書くこと」の学習で、目的に応じてどこを詳しく書こうか考えている。
学校生活	ア：全校朝会の話や教師や友達との会話の中で知らない言葉が出てきた際に、そのまま聞き流さずに意味を尋ねたり、言葉ノートに記録したりしている。 ：家庭学習のテーマに言葉に関するものを選び、調べたり集めたりしている。 イ：縦割り班活動や地域の方を招いた行事などの際に、自分の話が伝わったか確認し、不足している場合には言葉を言い換えたり説明を付け加えたりしている。 ウ①：低学年の子、友達、上級生や大人と、相手に応じて言葉や言葉遣いを選び、話している。

	<p>ウ①：友達との会話の中で、相手がどう感じるかを考えて言葉を選んだり説明を加えて誤解を防いだりしながら、相手とよい関係を築こうとしている。</p> <p>ウ②：クラブ発表や総合的な学習の時間の発表原稿、委員会からのお知らせを作る際に、対象の学年や聞き手に合わせて内容や表現を選び、より伝わるように工夫して書いている。</p>
日常生活	<p>ア：ニュースやポスター、家族との会話の中で耳慣れない言葉に出合った時に書き留めたり、意味を家族に尋ねたり辞書を引いたりしている。</p> <p>イ：家族や親戚、近所の人や初対面の人との会話の中で、相手に合わせた言葉を選んで話したり、うまく伝わっていない場合には言葉を言い換えたり説明を付け加えたりしている。</p> <p>ウ①：初対面の人との会話の中で、相手にどう伝わるかを考えて言葉を選んだり、互いを知ることのできる話題や共通する話題を探したりして、関係を結ぼうとしている。</p> <p>ウ②：家族や親戚、友達に向けて、読んだときどのような気持ちになるかを考えながら言葉や表現、内容を選び、誕生日カードや感謝の手紙、年賀状等近況報告の手紙やメールを書いている。</p>

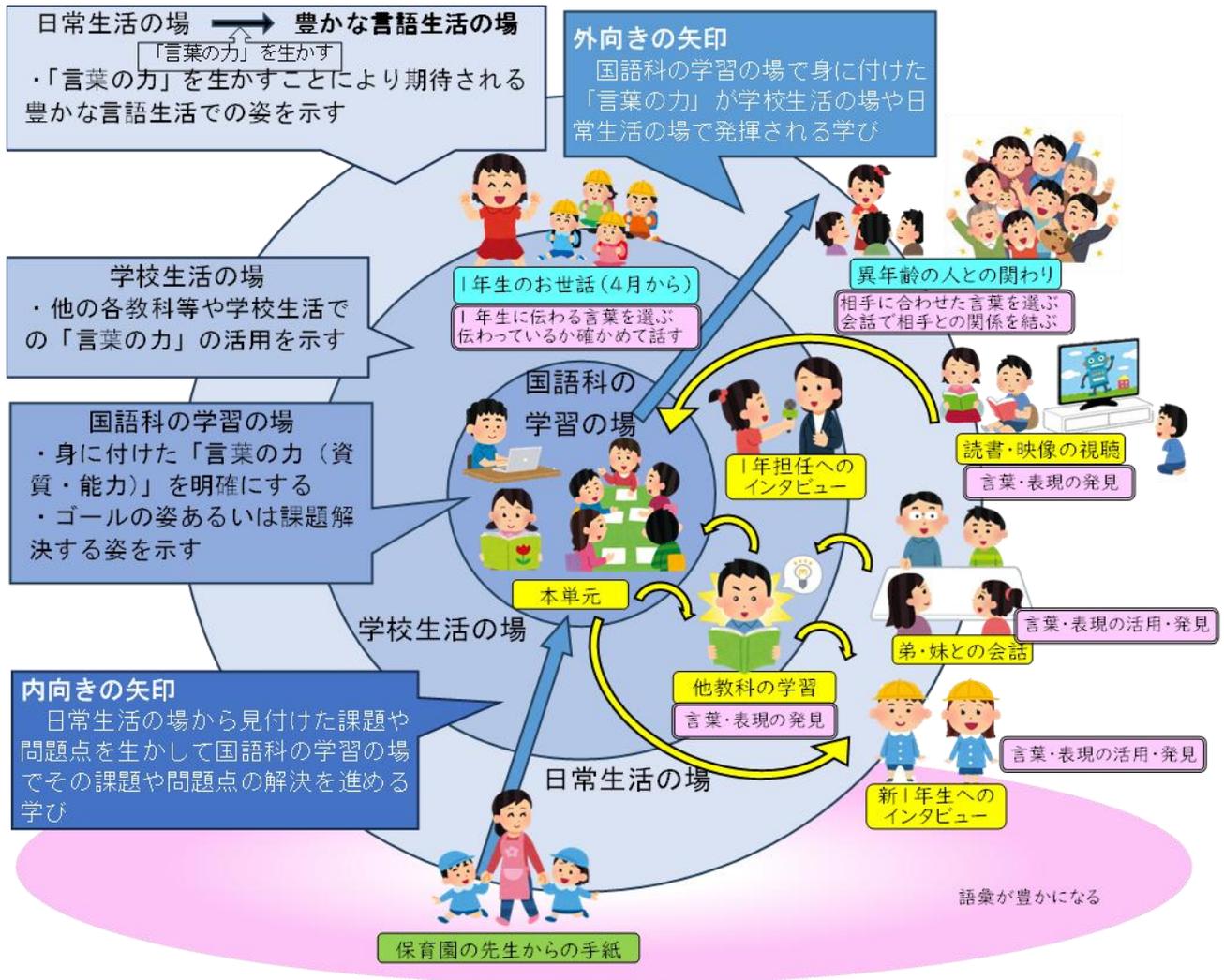
言語部が目指す豊かな言語生活とは、言葉そのものへの興味・関心をもったり、意識して言葉を使い、よりよく人と関わったりしながら生活することである。他者とつながり関わり合いながら、自分で考え意思決定し、社会の一員として生きていくためには言葉が不可欠である。言語部では、豊かな言語生活を「言葉そのものへの興味・関心」「自己内対話」「他者とのコミュニケーション」の三つの側面から捉えており、三つの側面を行き来しながら生活していくことで、言語生活がより豊かなものとなっていくと考える。(別紙資料③参照)

言語部では、実生活の中に課題を見付けて単元化し、単元の学習を通して高まった言葉の力が実生活に還元していくような単元づくりを心掛けている。

本単元では、近隣保育園の先生からの手紙をきっかけに新1年生の存在を意識し、新1年生の気になることを解決するための本づくりを通して、相手に応じて言葉や表現、内容を選ぶことの大切さや、言葉を介して新たな関係を結ぶことができることを学習する。本単元で学んだことが、4月からの学校生活で1年生のお世話をしたり最高学年として縦割り班活動をリードしたりする際に生きてくるのである。それらの活動をする中で、さらなる課題が見付き、新たな単元が生まれることも考えられる。

本単元は、学習中から学習と実生活とを行き来しながら進んでいく単元である。学校生活や日常生活の中で、考えた表現が実際に伝わるかどうかを試したり年下の子とやり取りする際に生かしたりするなど、学習で獲得しつつある言葉の力を実生活に生かすことができる。実生活と学習を往還しながら学ぶ経験を重ねていくことで、児童の語彙を豊かにしていくことができる。そのことが、児童の言語生活を豊かにしていくことにつながるのである。(p.10 図①参照)

【図①「言葉の力」を生かすことで、豊かな言語生活を実現することについて】（都小国研：6月）に追記



参考「豊かな言語生活者を育てる ー国語の単元開発と実践ー」 桑原隆 編著

5 単元計画（全7時間）

過程(次)	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
第一次 出合う	1	1 保育園の先生から届いた手紙を読み、感じたことを出し合う。	○感じたことを出し合う中で、自分の経験を想起し、新1年生が気になっていることを解決してあげたいという思いを醸成できるようにする。 ○できるだけ多くの相手を想定し、課外に行うインタビューの相手を各自で選択できるようにする。	
		2 新1年生の「小学校で気になっていること」を調べる方法を考える。		
課外		○弟、妹、1年生、年長児などを対象に、入学前に気になっていたことや、知りたいことのインタビューをする。		

2	<p>1 インタビューの結果を共有し、分類・整理する。</p> <p>2 単元の学習課題を設定する。</p> <p>3 自分が書きたい内容を決める。</p> <p>4 学習材「○○小学校のお話」や図書資料を読み、どのような形式の本にして伝えるか考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>〈構成の種類〉</p> <p>①キャラクターが説明する ②読む人が参加できる ③クイズ形式で紹介する ④物語になっている ⑤その場のものになりきる 他</p> </div> <p>5 単元名を決める。</p> <p>6 学習を振り返る。</p>	<p>○気になっていることの内容と併せて、気持ちも整理し、第3時にグループの学習課題を設定する際に参考にできるようにする。</p> <p>○共通の学習材を読んで、構成の種類を捉えたり、文章量や言葉の難易度、表現の種類に気付いたりできるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>〈新1年生に伝わりやすい表現〉</p> <p>①よびかけ ②オノマトペ ③会話 ④比喻 ⑤程度 ⑥慣用表現 ⑦擬人法 ⑧繰り返し</p> </div>
---	---	---

第二次
親しむ

【課外】
単元の学習と並行して、図書資料を読み、新1年生に伝わりやすい表現（よく使われている表現）の工夫を収集する。

第3時～第5時（学習活動2～6）は、各グループのペースで学習活動を進め、必要に応じて行きつ戻りつする。
○毎時間の始めと終わりにグループで編集会議の時間を設定し、個人の進捗を報告し合ったり、書いた内容がグループの学習課題に沿っているかを確認したりするようにする。
○必要に応じて、同じ学習過程にいる友達や、先に進んでいる友達と話し合うことができるようにする。

3 ・ 4 ・ 5 月 組 本 時	<p>1 単元の学習課題を確認し、全体で本をつくるための計画を立て、見通しをもつ。</p> <p>2 相手（新1年生）を意識してどんな本にしたいのか話し合いグループの学習課題を決める。 例：読んでわくわくする本 読んで安心する本</p> <p>3 本の構成を検討し、役割分担をする。</p> <p>4 決まった自分の役割に応じて書くのに必要な情報を集める。 *一人一台タブレット端末の活用</p> <p>5 新1年生に伝えたい情報を選び、ページのレイアウトを考え、記述する。</p> <p>6 書いた文章を読み返し、グループの学習課題に合ったものになっているか確かめる。 (1)「読み返す観点」に沿って読み返し、気付いたことを出し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>〈読み返す観点〉</p> <p>①つながり ②レイアウト ③読みやすさ ④誤字・脱字 他</p> </div>	<p>○クラス全体で大まかな計画を立て、それに沿って各グループが活動を進めることができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>身に付けたい力を意識する場面</p> </div> <p>○本を読んでどんな気持ちになってほしいかを考えるよう助言する。</p> <p>○学習材「○○小学校のお話」や図書資料を参考に、構成を考えることができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>自ら学びを進める場面</p> </div> <p>○各グループの学習課題と構成、担当を一覧にし、相談する相手を選ぶ際に活用できるようにしておく。</p> <p>○これまでに見つけた構成や表現の工夫を活用してページを作成できるよう、見つけた工夫を一覧にして掲示しておく。</p> <p>○写真やイラスト、文字の大きさや色の効果なども考えてみるよう助言する。</p> <p>○本づくり計画書を見返すことで、グループの学習課題を確認できるようにする。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>〔主体的に学習に取り組む態度①〕 ワークシート・観察 ・グループの学習課題に応じて、新1年生により伝わりやすい言葉や表現を選ぼうとしているかの確認</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 10px;"> <p>〔思考・判断・表現①〕 作品・観察・編集会議の発言 ・グループの学習課題に応じて、構成を工夫したり言葉や表現を選んだりして書いているかの確認</p> </div>
---	--	--	--

	<p>(2)言葉に着目して読み返し、気付いたことを出し合う。</p> <p>(3)自分の担当ページを修正する。</p>	<p>言葉による見方・考え方を働かせる場面</p> <p>○同じ表現が続いている場合や新1年生にとって難解な表現がある場合は、他の表現を探してみるように促す。</p>	
6 竹組 本時	<p>1 前時の学習を振り返り、本時のめあて(個人の学習課題)を確かめる。</p> <p>2 自分が使いたい表現の工夫に合った言葉の候補を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>〈新1年生に伝わりやすい表現〉</p> <p>①よびかけ ②オノマトペ ③会話 ④比喻 ⑤程度 ⑥慣用表現 ⑦擬人法 ⑧繰り返し</p> </div> <p>3 グループ同士で作品を読み合い、新1年生に伝わる文章の構成や表現になっているかを考える。</p> <p>4 他グループとの交流を受けて、自分が担当したページの文章をより分かりやすい言葉や表現を使って書き直す。</p> <p>5 学習を振り返る。</p>	<p>身に付けたい力を意識する場面</p> <p>○見直す言葉や表現を明確にする。</p> <p>自ら学びを進める場面</p> <p>○辞書や「言葉ノート」、1年生の「ことばのたからばこ」等、言葉や表現を探す方法を自由に選択できるようにする。</p> <p>言葉による見方・考え方を働かせる場面</p> <p>○集まった言葉や表現の中から、新1年生により伝わりやすいと思うものを選ぶように声を掛ける。</p>	<p>〔思考・判断・表現①〕 一人一台端末・ワークシート・観察</p> <p>・自分の文章を見直し、新1年生により伝わりやすいと思う言葉や表現を選んでいるかの確認</p>
第三次 生かす	<p>1 もらった感想を読み、気が付いたことを共有する。</p> <p>2 相手を意識して文章を書くことのよさを出し合い、単元の学習を振り返る。</p>	<p>○完成作品を1年生や図書館司書、保育園の先生や低学年の担任に読んでもらい、感想を貰っておく。</p> <p>○感想を読むことで、書いたものを介して相手とのつながりができたことを認識できるようにする。</p> <p>○満足感や達成感を共有し、「書くこと」のよさを実感できるようにする。</p> <p>○学習材「言葉を使い分けよう」を読み、相手に合っていない言葉を使用したときの効果を考えさせることで、言葉の働きや役割、効果を改めて感じることができるようになる。</p>	<p>〔知識・技能①〕 ワークシート・観察</p> <p>・言葉には相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いているかの確認</p>

6 本時の学習（月組：5/7）

(1) 本時のねらい

つくった本がグループの学習課題に合っているか確かめ、新1年生により伝わる言葉を探したり選んだりすることができる。

(2) 本時の展開

学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
<p>1 前時までの学習を振り返り、学習の流れと本時のめあてを確かめる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">身に付けたい力を意識する場面</div> <ul style="list-style-type: none"> ○新1年生に伝えるための本と いうことを確認し、相手をより意識できるようにする。 ○第3時から第5時までの書く活動の流れを掲示物等で分かるようにしておく。 	
<p>つくった絵本を読み返し、グループの学習課題に合っているか確かめよう（仮）</p>		
<p>2 編集グループでこれまでの進捗を報告したり、グループの学習課題に沿って作成できているか確かめたりする。 （編集会議①）</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">身に付けたい力を意識する場面</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ページ作成の進み具合と併せて、グループの学習課題に合った構成や言葉選びになっているか確かめるように声を掛ける。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〔思考・判断・表現①〕 <u>作品・観察・編集会議の発言</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの学習課題に応じて、構成を工夫したり言葉や表現を選んだりして書いているかの確認 </div>
<p>3 個人のページの完成に向けて、新1年生に分かりやすく伝わるように文章を書く。</p> <p>(1) 書くために必要な絵や写真を決め、レイアウトを考える。</p> <p>(2) 文を記述する。</p> <p>(3) 書いた文章を読み返し、誤字・脱字などを修正する。</p> <p>4 グループで書いたページを見合い、新1年生に分かりやすい本になっているかどうかを見直す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈読み返す観点〉</p> <p>①つながり ②レイアウト ③読みやすさ ④誤字・脱字 他</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">自ら学びを進める場面</div> <ul style="list-style-type: none"> ○3, 4は、グループごとに進度が異なるため、各グループの進捗状況を示し、見通しをもって活動を進めたり相談相手を選ぶ際の参考にしたりできるようにする。 ○文や言葉を書き出すことが難しい児童には、グループの友達に相談するように促す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈新1年生に伝わりやすい表現〉</p> <p>①よびかけ ②オノマトペ ③会話 ④比喩 ⑤程度 ⑥慣用表現 ⑦擬人法 ⑧繰り返し</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〔言葉による見方・考え方を働かせている児童の姿〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新1年生に伝わりやすい表現はどれかを考えながら、言葉を探したり選んだりしている。 </div>
<p>5 本全体を読み返し、グループの学習課題に合ったものになっているか確かめる。（編集会議②）</p> <p>(1) 「読み返す観点」に沿って読み返し、気付いたところを出し合う。</p> <p>(2) 言葉に着目して読み返し、気付いたことを出し合う。</p> <p>(3) 自分の担当ページを修正する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○本づくり計画書を見返すことで、グループの学習課題やテーマを確認できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">言葉による見方・考え方を働かせる場面</div> <ul style="list-style-type: none"> ○同じ表現が続いている場合や新1年生にとって難解な表現がある場合は、他の表現を探してみるように促す。 ○グループの学習課題や、表現に対する振り返りを書くように伝える。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〔主体的に学習に取り組む態度①〕</p> <p>ワークシート・観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの学習課題に応じて、新1年生により伝わりやすい言葉や表現を選ぼうとしているかの確認 </div>
<p>6 本時の学習を振り返る。</p>		

6 本時の学習（竹組：6/7）

(1) 本時のねらい

新1年生に分かりやすく伝わるように、自分の書いた「大一小のお話」の文章を見直すことができる。

(2) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
<p>1 前時の学習を振り返り、本時のめあて（個人の学習課題）を確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>〈新1年生に伝わりやすい表現〉 ①よびかけ ②オノマトペ ③会話 ④比喻 ⑤程度 ⑥慣用表現 ⑦擬人法 ⑧繰り返し</p> </div>	<p>○自分の作成したページの中で、伝わるかどうか心配な点や使いたい表現の工夫を明確にし、個人の学習課題とする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>身に付けたい力を意識する場面</p> </div> <p>○見直す言葉や表現を明確にする。</p>	
<p>新1年生に分かりやすく伝わるように自分のページの言葉や表現を見直そう（仮）</p>		
<p>2 自分が使いたい表現の工夫に合った言葉の候補を考える。</p> <p>3 グループ同士で作品を読み合い、新1年生に伝わる文章の言葉や表現になっているかを考える。</p> <p>(1) グループ同士で、伝わるかどうか心配な点や使いたい表現の工夫を伝え合う。</p> <p>(2) 相手グループの作品を読み、気付いたことや改善案を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>〈語句をより理解するための方策〉 その語句の ①有無 ②言い換え ③経験の想起 ④辞書的な意味 ⑤動作化</p> </div> <p>(3) 作品を読んで気付いたことや表現の候補を相手グループに伝える。</p> <p>4 他グループとの交流を受けて、自分が担当したページの文章をより分かりやすい言葉や表現を使って書き直す。</p> <p>(1) 集まった言葉や表現を参考に自分が最適だと思う言葉や表現を選ぶ。</p> <p>(2) 選んだ言葉を使用して自分の担当ページを書き直す。</p> <p>5 本時の学習を振り返る。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>自ら学びを進める場面</p> </div> <p>○辞書や「言葉ノート」、「ことばのたからばこ（1年生）」など、言葉や表現を探す学習方法を自由に選択できるようにする。</p> <p>○文や言葉を書き出すことが難しい児童には、同じグループの友達に相談するように促す。</p> <p>○話し合いの中で、言葉を広げたり選んだりすることができるように、話し合いの仕方を提示する。</p> <p>○話し合いの中で出てきた言葉や表現を、書き留めておくように促す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>言葉による見方・考え方を働かせる場面</p> </div> <p>○集まった言葉や表現の中から、新1年生により伝わりやすいと思う言葉や表現を選ぶように声を掛ける。</p> <p>○書き直した児童には、作品全体を読み返すように伝える。</p> <p>○グループや個人の学習課題に沿って振り返りを書くように伝える。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>〔言葉による見方・考え方を働かせている児童の姿〕</p> <p>・自分の文章について、より伝わりやすくしたい部分を明確にし、表現から受ける感じや表現の効果を考えながら、どの言葉が自分の文章に最も合うかを吟味している。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>〔思考・判断・表現①〕 一人一台端末・ワークシート・観察</p> <p>・自分の文章を見直し、新1年生により伝わりやすいと思う言葉や表現を選んでいるかの確認</p> </div>

7 資料

(1) モデル作品「まいごになってもだいじょうぶ～たかはたしょうがっこうのおはなし～」

たかはた しょうがっこう の おはなし

あたらしいばしょでは、まよいやすいですよね。おや、このがっこうでも、1ねんせいがまいごになったようですよ。

まいごになっても だいじょうぶ

みんな、どこにいったの。1ねんせいのきょうしつにかえりたいよ。

ぼくは「ななたか」！だいじょうぶ、ちからをかすよ。

まいごになりやすいばしょは、このふたつです。かえりかたをたしかめておけば、はらはらしなくてすみますよ。

たいいくかん

たいくかんでは、ふわふわボールでドッジボールができるよね。としょしつはまるでほんやさん。

としょしつ

あんまりたのしくて、きがついたら、みんなのすがたがきえていたんだ。とてもびっくりして、めがてんになったよ。

まいごになったら、ましろうかのまどから、そとをみてみましょう。どちらにおかっていけばいいのかわかるとあんしんですね。

1ねんせいのきょうしつは「しんこうしゃ」にあるよ。

みえたよ！あっちにいけばいいんだね。

ほんこうしゃ しんこうしゃ

むかうほうこうがわかったら、ろうかをすすんでいきましょう。しんばいになるぐらいながくても、ちゃんとたどりつけますよ。

しんこうしゃにもどるみちだよ。

てくてく かどをまがって ずんずんさきにすすもう。

さあ、ちかづいてきましたよ。しっているばしょにきたら、もうだいじょうぶ。あわてずに、ゆっくりかえればいいですよ。

ほけんしつ

ここからなら、きょうしつにかえれるよ。どうもありがとう。

ここが、ほんこうしゃのはじっこだ。ぐるっとまがるとしんこうしゃだよ。

がっこうには、ちずやばしょをしめすしるしがたくさんあります。だれもがなれるまではまよいやすいです。

ちずはあるけれど、まだおぼえにくいね。すこしずつおぼえていけばいいよ。

あんまりひろいから、めいろのようだな。かんじはまだよめないけれど、こっちが1ねんせいのきょうしつかな。

こまったことがあったら、いつでも、どのせんせいにも、きいてもいいですよ。

どんなことでも、せんせいにきいていいんだね。

1ねんせいのみんな！ぼくたちも、たすけるよ。いつでもこえをかけてね。

まいごのしんばい、へったかな。あんしんして、しょうがっこうにきてね。みんなであまっているよ。

(2) モデル作品「べんきょうたのしみ～こうやましょうがっこうのおはなし～」

べんきょう たのしみ
～こうやましょうがっこうのおはなし～

やあ、みんな。ぼくは、ラクーン。こんど1ねんせいになるんだ。

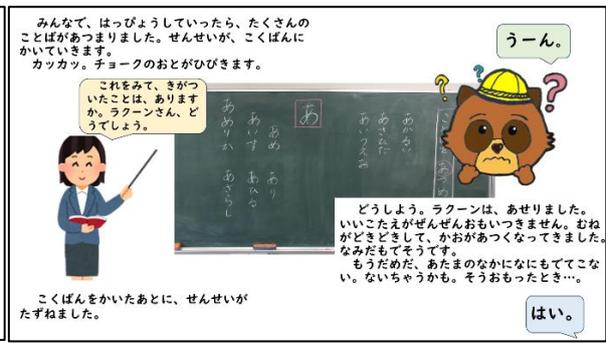
4がつになるのがまぢきれないラクーンは、こうやましようにやってきました。たいいくかんをながめていると、むこうから、とことどこだれかがやってきました。

きみは、だれ？ぼくはラクーン。1ねんせいのべんきょうってどんなことをするのか。わくわくしちゃう！

わたしはレッサー。いま1ねんせいわ。わたしがおしえてあげるね。ついてきて！



3



4



5



6

(3)図書資料一覧

①学校紹介をテーマにした本

	タイトル	作者	出版社
1	1ねん1くみの1にち	川島 敏生	アリス館
2	小学校の生活	はまの ゆか	学研
3	いちねんせいのいちにち	おか しゅうぞう	佼成出版
4	いちねんせいのがっこうたんけん	おか しゅうぞう	佼成出版
5	がっこうたんけん しょうがっこうだいずかん	WIL こども知育研究所	左に同じ
6	小学校の生活 ずかん	はまの ゆか	学研
7	ちゅんたろうの しょうがっこうたんけん	田島 かおり	白泉社
8	しょうがっこうが だいすき	うい	学研
9	しょうがっこうへ いこう	斉藤 洋	講談社
10	いちねんせいに なつたから！	くすのき しげのり	講談社

②言葉や表現に着目したい本

1	だいじょうぶ だいじょうぶ	いとうひろし	講談社
2	文房具のやすみじかん	土橋 正	福音館書店
3	ぼくがすきなこと	中川 ひろたか	ハッピーオウル社
4	ぞろりぞろりとやさいがね	ひろかわ さえこ	偕成社
5	みんなまってるよ	横山 寿美代監修 青山 ゆういち絵	少年写真新聞社
6	たからさがし	なかがわ りえこ	福音館書店
7	そらめくんのベット	なかや みわ	福音館書店
8	そらいろのたね	なかがわ りえこ	福音館書店
9	おしくらまんじゅう	かがくい ひろし	ブロンズ新社
10	おおきななな	内田 莉莎子訳	福音館書店
11	ゆうたはともだち	きたやま ようこ	あかね書房
12	1ねん1くみの1にち	川島 敏生	アリス館
13	10びきのかえるのたなばたまつり	間所 ひさこ	PHP 研究所
14	はこぶ	鎌田 歩	教育画劇
15	学校が大好きアクバルくん	長倉 洋海	アリス館
16	そりあそび	さとう わきこ	福音館書店
17	だるまちゃんととらのこちゃん	加古 里子	福音館書店
18	とんことり	筒井 頼子	福音館書店
19	ゆっくりのんびり	いとう ひろし	絵本館
20	げつようびはなにたべる	エリック・カール作 もりひさし訳	偕成社